

爆走！

この冬、勝ちまくる



GPシリーズでは前田将太が遂にSG初優勝。同じく102期の面々が祝う



102期!!

表1 昨年8月以降の102期生による特別レース優勝(GII以上)

年	月日	場	グレード	開催名	選手名	決まり手
2024	8月12日	福 岡	PG I	第38回レディースチャンピオン	遠藤 エミ	逃げ
	11月24日	下 関	S G	第27回チャレンジカップ	河合 佑樹	逃げ
	12月8日	鳴 門	G I	大渦大賞(71周年記念)	河合 佑樹	抜き
	12月22日	住之江	S G	第39回グランプリシリーズ	前田 将太	逃げ
2025	12月31日	蒲 郡	PG I	第13回クイーンズクライマックス	遠藤 エミ	逃げ
	1月19日	江戸川	G I	江戸川大賞(69周年記念)	山田 康二	差し

年明けの江戸川周年では山田康二が差しを決めてGI3勝目



その勢いは、年が明けてもまだ続く。1月19日、山田康二が江戸川周年でGI3勝目。今年の好スタートを切った。

昨秋から102期生が、まさに無双の快走を続けている。表1を参照しながら、その足跡を簡単に追ってみよう。

まず11月、河合佑樹がチャレンジカップで。賞金ランク最下位からの大下克上！ SG初ゲットと同時にグランプリ出場権も獲得。その勢いに乗って12月の鳴門周年も制した。

続いて12月第3週のグランプリ

河合佑樹と前田将太がSG初V！
新年に入っても勢いはそのまま!!

夏↓冬のPGI連覇ということになる。当然ながら、優秀選手の表彰では4年連続5回目の「優秀女子選手」にも選ばれた。

そして昨年の大トリを飾ったのが遠藤エミ。大晦日の夜に、2度目のクイーンズクライマックスを準パーフェクトVで飾った。遠藤は8月のレディースチャンピオンも一昨年に続いて優勝しており、

同シリーズでは、前田将太がSG7回目の優出で遂に初制覇。得点率1位からの王道優勝だった。



22年3月のクラシックで
遠藤エミが女子初の
快挙!!

前田や女子の守屋たちも水面に飛び込んで水神祭



新人当時から前田と山田でエース争い 遠藤の女子SG初制覇に刺激を受け:

102期は2008(平成20)年3月の登録で今期が17年目。全選手が昭和61年から平成元年生まれで35〜38歳。まさに一番脂の乗っ

ている世代といえるだろう。デビュー間もない頃から頭角を現したのが前田と山田だ。11(平成23)年は最優秀新人のタイトルを両選手で激しく争い、このタイトルは山田が受賞した。その一方で、最初に特別レースを手にしたのは前田で、14年3月の浜名湖MB大賞(GII)だった。

しかしながら、この102期による快進撃ロードの礎を築いたのは、女傑・遠藤といえるだろう。研修所ではわずか3・92と下位の勝率で、全く目立たなかった。しかし実戦で驚異的に力をつけて女子の特別タイトルを勝ちまくった後、22年3月にクラシック制覇! 女子選手による史上初のSG戴冠として、ボートレース史上で最大級のニュースをもたらした。

表2 102期生による特別レース(GII以上)の優勝者

年	月日	場	グレード	開催名	選手名
2014	3月30日	浜名湖	GII	モーターボート大賞	前田 将太
2015	8月9日	丸亀	PGI	第29回レディースチャンピオン	滝川真由子
2016	11月27日	大村	GII	レディースチャレンジカップ	遠藤 エミ
2017	6月18日	常滑	GII	モーターボート大賞	山田 康二
	11月26日	下関	GII	レディースチャレンジカップ	遠藤 エミ
2017	12月31日	大村	PGI	第6回クイーンズクライマックス	遠藤 エミ
	12月15日	唐津	GI	ダイヤモンドカップ	山田 康二
2018	2月14日	芦屋	GI	第65回九州地区選手権	桑原 悠
	7月8日	尼崎	GII	モーターボート大賞	河合 佑樹
	11月24日	桐生	GII	レディースチャレンジカップ	遠藤 エミ
2020	2月18日	唐津	GI	第66回九州地区選手権	桑原 悠
2021	6月11日	福岡	GI	福岡チャンピオンカップ(68周年記念)	前田 将太
	8月10日	浜名湖	PGI	第35回レディースチャンピオン	遠藤 エミ
	11月28日	多摩川	GII	レディースチャレンジカップ	遠藤 エミ
2022	1月16日	尼崎	GI	尼崎センブルカップ(69周年記念)	河合 佑樹
	3月21日	大村	SG	第57回ボートレースクラシック	遠藤 エミ
	7月31日	江戸川	GII	モーターボート大賞	山田 康二
	12月9日	唐津	GI	全日本王者決定戦(69周年記念)	山田 康二
2023	1月31日	江戸川	GI	江戸川大賞(67周年記念)	前田 将太
	8月6日	津	PGI	第37回レディースチャンピオン	遠藤 エミ

*2024年以降は表1で掲載

表3 102期生“6強”のトータル及び新期成績

登番	選手名	SG	GI	GII	GIII一般	新期成績(2月16日現在)		
						勝率	優出	優勝
4494	河合 佑樹	1	2	1	28	8.16	5	2
4497	桑原 悠	0	2	0	30	7.12	3	1
4500	山田 康二	0	3	2	39	7.60	6	5
4502	遠藤 エミ	1	5	4	36	7.00	4	2
4503	上野真之介	0	0	0	35	7.83	4	0
4504	前田 将太	1	2	1	43	7.58	3	2



桑原悠には九州地区選連覇の実績あり

新期は河合が8点勝率!
102期の“6強”と呼ぶべき面々の成績をまとめたのが表3だ。河合は初の8点勝率に乗せてハイレベルな走り続けている。山田と前田の優勝確率の高さも際立つ。とくに山田は、今年2月15日まで4節走って3優出でオール優勝と快進撃が続く。また桑原も今年は、新年の地元正月戦(ミッドナイトレース)でオール連対優勝、九州地区選も優出とリズムは上々だ。

自己最高勝率ベースの野村誠



伸び仕様が当たっている内堀学



一般戦でも102期生の活躍が目立っている(表4)。とくにA2級選手の勝率アップが目立つ。筆頭は内堀学だ。多摩川の地元正月戦で豪快にまくりV。2月に入っても住之江で優勝と、今年既にV2。伸びが際立っている。野村誠はデビュー16年目の24年前期に初めてA1級へ上がった遅咲き。同じく平見真彦もA1級は1回だけだが、今期は両雄ともその時をかなり上回るキャリアアハイのペースで奮戦しており、A1級カムバックへ気合十分だ。

一般戦でも内堀学ら活躍選手が続々 樋口由加里も復調気配で注目を!!

A2級選手が軒並み好調!

表4 一般戦での活躍が目立つ102期生の面々

登番	選手名	通算勝率	今期適用成績		新期成績(2月16日現在)		
			級別	勝率	勝率	優出	優勝
4486	野村 誠	5.41	A2	5.86	6.50	3	0
4496	内堀 学	5.46	A2	5.72	6.55	3	2
4501	樋口由加里	5.51	B1	5.15	6.03	0	0
4505	島田 賢人	5.56	A1	6.47	6.48	3	1
4509	平見 真彦	5.27	A2	5.89	6.49	1	0
4513	河野 真也	5.29	A2	5.47	5.71	2	0
4514	上條 嘉嗣	5.36	A1	7.19	6.38	2	0
4515	藤田 浩人	5.51	A2	5.94	5.95	1	0

典型的な晩成型が上條嘉嗣。A2昇級に8年半、さらにA1級へは5年半を要したが、前期はプチブレイク。13回の優出を重ねて7点勝率をマークした。今期は少し勝率を下けているが、地力がついた今なら巻き返しは必至だろう。また、この期の修了記念チャンプだった島田賢人は、長らくA2級の安定株だったが、4期前からA1級に定着。先日は関東地区選で初のGI優出を決めた。もうひとり見逃せないのは、産休明けから復調気配を見せる樋口由加里。5年ほど前は女子の上位クラスで、レディースチャンピオンの優出歴もある。徐々に女子戦での活躍機会が増えてきそうだ。



特別レースの水神祭が待ち遠しい上野真之介

102期快走の波に乗り、今年こそ特別制覇を目指しているのが上野真之介と高野哲史だ。とくに上野はGII以上の優出歴が既に19回(表6)。準Vや3着の惜敗歴が多い。昨年だけでもGI3回、GII1回と4回の優出をマーク。12月3日の三国周年では1号艇で優出も、F艇にまくられる不運もあった(表7)。その一方で、SGやGIでは同期の祝福を重ねてきた。しかし優勝できる地力は誰もが認める。一刻も早く、自分が祝福される身になりたい。高野もGII以上で計7回の優出歴。初SGの20年オーシャンカップでいきなり優出を決めたキャリアもある。最近もコンスタントに7点前後の勝率を残しており、特別制覇のチャンスはあるはずだ。

この波に乗る!! 上野真之介と高野哲史

高野哲史も既に7回の特別優出歴を重ねている

表7 三国71周年優勝戦(2024/12/3)

着	艇番	選手名	進入	ST
1	②	下出 卓矢	2	07
2	①	上野真之介	1	03
3	⑥	佐藤 翼	6	15
4	⑤	辻 栄蔵	5	15
5	③	毒島 誠	3	08
F	④	金子 拓矢	4	+01

表6 上野真之介及び高野哲史の主な特別優出歴

選手名	グレード	優出回数	主な戦績
上野真之介	SG	2	20年グラチャン②
	GI	10	24年三国71周年②
	GII	7	24年児島MB大賞②
高野 哲史	SG	1	20年オーシャンC⑥
	GI	3	22年唐津68周年⑤
	GII	3	19年津MB大賞②



2連単 ②-① 1460円 5番人気 差し
3連単 ②-①-⑥ 6830円 20番人気

爆走! 102期!!

表5 102期/現役全選手の通算・今期適用・新时期績一覧

登番	選手名	支部	通算成績			今期適用成績		新时期績(2月16日現在)			
			勝率	1着数	優勝	級別	勝率	勝率	優出	優勝	近況
4485	楠原 正剛	福岡	5.05	430	2	A2	5.57	4.78	0	0	↓
4486	野村 誠	群馬	5.41	645	4	A2	5.86	6.50	3	0	↑
4487	三原 司	福岡	4.23	263	0	B1	4.51	4.56	0	0	→
4488	小山 勉	埼玉	5.76	711	9	A1	6.38	6.14	3	0	→
4489	岩川 仁士	大阪	4.53	321	0	B1	5.17	5.25	1	0	↗
4491	田中 堅	群馬	4.60	336	1	B1	4.97	5.02	0	0	→
4492	本多 宏和	愛知	6.04	915	23	A1	6.19	5.13	0	0	↓
4494	河合 佑樹	静岡	6.52	1013	32	A1	7.01	8.16	5	2	↑
4495	森 晋太郎	福岡	4.67	372	1	B1	4.71	4.47	0	0	↓
4496	内堀 学	東京	5.46	650	8	A2	5.72	6.55	3	2	↑
4497	桑原 悠	長崎	6.29	958	32	A1	6.93	7.12	3	1	↗
4498	宮本 夏樹	長崎	5.05	548	3	B1	4.91	5.24	2	1	↗
4499	滝川真由子	長崎	5.12	377	3	A2	6.14	4.48	0	0	↓
4500	山田 康二	佐賀	6.93	1190	44	A1	7.70	7.60	6	5	↗
4501	樋口由加里	岡山	5.51	726	5	B1	5.15	6.03	0	0	↗
4502	遠藤 エミ	滋賀	6.53	1072	46	A1	7.29	7.00	4	2	↗
4503	上野真之介	佐賀	6.76	1282	35	A1	7.48	7.83	4	0	↗
4504	前田 将太	福岡	6.95	1227	47	A1	7.33	7.58	3	2	↑
4505	島田 賢人	埼玉	5.57	791	12	A1	6.47	6.48	3	1	→
4506	神田 聖也	福岡	5.18	652	4	B1	5.28	5.78	0	0	↗
4508	野間 大樹	大阪	4.23	217	0	B1	4.75	4.41	0	0	↓
4509	平見 真彦	愛知	5.28	548	6	A2	5.89	6.49	1	0	↗
4510	坂本 奈央	福岡	3.46	71	0	B2	0.00	0.00	0	0	→
4511	中岡 健人	香川	4.42	315	0	B1	4.33	3.16	0	0	↓
4512	高野 哲史	兵庫	6.17	1052	19	A1	7.10	6.73	2	0	→
4513	河野 真也	福岡	5.29	574	4	A2	5.47	5.71	2	0	↗
4514	上條 嘉嗣	大阪	5.36	603	6	A1	7.19	6.38	2	0	↓
4515	藤田 浩人	佐賀	5.51	681	2	A2	5.94	5.95	1	0	↗

GI初優出を果たした島田賢人



なお左の表5で、102期・現役選手(これまでに3人が引退の通算・今期適用・新时期績を一覧にしてまとめた。各項目で1位の数字は赤い太字で示している。通算勝率では前田が1位で、山

1着数では上野が1位

強豪が集う岡山女子の一角・樋口由加里



田が微差で続く。優勝回数でも前田が1位で、遠藤が1回差。ちなみに優出回数も前田が1位で、現在3冠王。しかし1着数では特別無冠の上野真之介がトップだ。また今期の適用勝率と新时期の優出・優勝回数は山田が1位。新时期の勝率1位には河合が立っている。

表8 「102期に続け!!」 次に席卷しそうな候補期

期	登番	選手名							
100	4424~4456	秦 英悟	川野 芽唯	桐生 順平	宮地 元輝	平高 奈菜			
105	4562~4590	塩田 北斗	菅 章哉	佐藤 翼	磯部 誠	渡邊 優美			
109	4662~4690	大上 卓人	島村 隆幸	丸野 一樹	永井 彪也	片橋 幸貴			
114	4805~4831	松尾 拓	村松 修二	中村 桃佳	井上 一輝	羽野 直也			
115	4832~4857	佐藤隆太郎	仲谷 颯仁	野中 一平	関 浩哉	豊田健士郎			
118	4916~4940	吉川 貴仁	栗城 匠	新開 航	板橋 侑我	宮之原輝紀			
122	5020~5045	安河内 健	原田才一郎	若林 義人	畑田 汰一	中村 日向			

*赤字はSG覇者、青字はGI覇者、緑字はGII覇者

羽野直也が初SGを飾った23年のオーシャンカップ



る。仲谷颯仁は先日、2度目の九州王者に輝いた。ここ1~2年の充実が著しい佐藤隆太郎や豊田健士郎もGI制覇が見えてきた。単穴は105期だ。磯部誠がSG覇者となり、佐藤翼は昨秋のダイビー以降SGで3連続優出中。この両者に続く人材も豊富。渡邊優美は女子のPGIが見えてきた。菅章哉も年明けのGI復帰戦で大暴れ。人気はSGトップクラスだ。

109期は島村隆幸と丸野一樹がリード。両者のSGでの活躍次第ではムブも。114期は、同期では最年少の羽野直也が平成戦士初のSG覇者となって牽引。早くにGI覇者3選手が誕生した。118期はややペースダウンか。5000番台では、まだGII以上の覇者は3人しか出ていない。期単位で見ると、5000番台初のGI覇者となった中村日向のいる122期がややリードか。21年の最優秀新人・畑田汰一や、修了記念王者の原田才一郎がその才能を見せ始めている。

102期に続く旋風を起す期は!?

左の表8を参考に、次に旋風を起す期を探っていきたい。本命は、102期より先輩になるが100期ではないか。桐生順平が約7年ぶりにSG制覇。宮地元輝の勢いも凄まじい。表8の5選手のうち、GI覇者はさらに松尾昂明と永田秀二が加わる。秦英悟はまだ無冠だが、SG3優出、GI4優出の実績があり、ひとつタイトルを取ったら勢いにつきそう。対抗は115期か。昨年PGIを2勝した関浩哉は、現在「最も初SGに近い選手」と目されている。